

# 戦前の朝鮮半島に居住していた「内地人」の日本語の中に現れる朝鮮語 —坪田譲治 [編] 『綴方子供風土記』 (1942年・実業之日本社) を中心に—

岡田祥平 (新潟大学) 生越直樹 (東京大学)

## 1. はじめに

- 第二次世界大戦に敗戦する以前の朝鮮半島  
⇒日本語母語話者 (=「内地人」と、朝鮮語母語話者 (=「朝鮮人」と) が接触
- 当時の朝鮮半島における言語状況については;  
⇒「朝鮮人」側に関する事象に関しては、精力的に研究が存在する  
⇒では、「内地人」側にはどのような事象が起きていたのか?
- 本発表では、主に、坪田譲治 [編] 『綴方子供風土記』 (1942年・実業之日本社) に着目

## 2.1 『綴方子供風土記』について

- 1942年7月に実業之日本社から出版
- 坪田譲治 (児童文学者) が編纂  
⇒「この大なる時代の子供の生活を記録しておきたい」  
⇒「吾国の、日本の、現代の子供の生活を記録しておきたい」  
⇒「地方の特色を出して下さい。」と頼んだ
- 「関東」「奥羽」「中部」「近畿」「中国」「九州」「北海道」「朝鮮」の各部
- 「朝鮮」の部には3編が掲載

## 2.2 『綴方子供風土記』の「朝鮮」のセクションに掲載されている綴方にあらわれる朝鮮語

### 2.2.1 木村美紗 (京城師範附属第一校三年) 「お風呂たき」

- …内地の方では女中といふが京城ではオモニーが、朝鮮のお正月で、田舎へかへつておかないのでほんたうに困る事でした。
- きつかつたでせう。ほんたうにうちのキチペーは、よう間にあつてチヨンゴシだね。もうオモニーなんかイリオブリ／＼／＼。

### 2.2.2 山崎英夫 (京城師範附属校四年) 「キチペ」

- 僕の家には三年近くも居た金花子といふキチペがゐた。

### 2.2.3 南稔子 (京城師範附属校五年) 「飴売り」

- …朝鮮の子供達が寄つて来ては、何か、がや／＼と言つてゐますが、何を言つてゐるのか、さっぱりわかりません。中には、「イゴオルマヨ。」とか「イゴカチヨウハ。」などと様々な事を言つて、飴売り屋のまはりは、沢山な子供でうづまつてしまひます。

## 2.3 議論①： 各用例から読み取れること

- 内地人は、「オモニ (-)」 (<어머니>) 「キチペ (-)」 (<기집애?>) といった朝鮮語を、日本語に取り入れていた。
- ただし、朝鮮語の意味とは異なる形で取り入れているように思われる
- 内地人の子供の中には朝鮮人が話す朝鮮語をカナで表記できる能力を有している者もいた (ただし、正確性に欠ける)
- 内地人同士の会話で、朝鮮語を取り入れた日本語表現をしているケースもあった

## 2.4 議論②： 『綴方子供風土記』の資料性

- Q: そもそも、『綴方子供風土記』の描写が事実に基づくのか?
- ⇒『綴方子供風土記』以外に出版された綴方集・作文集に掲載されている内地人の綴方・作文を確認しても、朝鮮語を見出せるものはほとんど確認できない
  - ⇒『綴方子供風土記』以外の綴方集・作文集では、「方言」の使用を忌避する指導がなされていた可能性がある
  - ⇒『綴方子供風土記』では、朝鮮という「地方の特色」を出すために、積極的に (実態以上に) 朝鮮語を取り入れている可能性がある

## 3. 内地人の日本語の中に現れる朝鮮語

- 「オモニ (-)」や「キチペ (-)」は、『綴方子供風土記』以外の資料にも多数の用例が確認できる  
⇒この2語は、内地人も一般的に (日常的に) 使用していた可能性が高い  
⇒引き揚げてきた内地人の間で、戦後も使用されていた可能性がある  
⇒それぞれの用例に付されている解説 (日本語訳) は微妙に異なる (意味、用法に個人差がある可能性も)

当時の内地人の言語生活の一端を明らかにするための、資料、方法論を模索する必要が…

⇒従来の研究では看過されがちであったものを生かせるか?  
(大衆文学や、戦後、引き揚げてきた内地人が結成した同郷会の会誌など)